

## 2027年国際園芸博覧会 (GREEN X EXPO 2027) への期待

前内閣総理大臣・衆議院議員

菅 義偉

すが よしひで



2027年、国際園芸博覧会 (GREEN X EXPO 2027) が、「幸せを創る明日の風景」をテーマに、横浜市・上瀬谷の大地で開催されます。国際園芸家協会 (AIPH) が承認する最高クラスの国際園芸博覧会としては、1990年の「大阪花の万博」以来37年ぶりの日本開催となります。また、1都3県で開催される初の国際博覧会でもあります。会場となる横浜市・上瀬谷は、遠くに丹沢山系を望み、緩やかな起伏の地形や農地などが残された、自然や人と社会の持続的な最適解を考えるのにふさわしい場所です。ここにはかつて、米軍の上瀬谷通

信施設がありました。私が内閣官房長官を務めていた2015年に、早期返還が実現されました。このような場所で園芸博覧会が開催されることは、友好と平和の象徴とも言え、誘致段階から関わっていた者として、私も大きな期待を寄せています。

私は、2020年の秋、「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。脱炭素化に向けて行動することが世界的な潮流となっている中、日本も脱炭素社会の実現に向けて動き出さないと、国際的なルールなどに対して、日本の発言力がなくなってしまうという懸念がありました。あわせて、

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、野心的な目標を掲げて取り組む企業を継続的に支援するため、2兆円の「グリーンイノベーション基金」の創設も行いました。この基金を活用して、洋上風力発電や次世代型太陽電池、水素、カーボンリサイクル、スマートモビリティなど、様々な分野で研究開発が始まっています。

脱炭素化をはじめとする気候変動への対応は、経済の制約ではありません。社会経済を大きく変革し、投資を促し、生産性を向上させ、産業構造の大転換と力強い成長を生み出す鍵となるものです。また同時に、気

候変動の影響により発生するリスクへの対応でもあります。昨今、わが国も災害の頻発化・激甚化に見舞われています。国民の命と暮らしを守るうえで、気候変動への対応が必要であることは言うまでもありませんが、企業にとっても事業継続への備えとして不可欠です。TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures : 気候関連財務情報開示タスクフォース) や TNFD (Task Force on Nature-related Financial Disclosures : 自然関連財務情報開示タスクフォース) への賛同など、生物多様性の損失や気候変動がもたらす影響への認識と対応が企業への評価をわけるようになっていきます。これをチャンスと捉え、挑戦していくことが企業に求められていると思います。

GREEN×EXPO 2027は、自然を活用した解決策 = Nature-based Solutions の考え方をベースにした新しい「グリーン万博」として、持続可能な地域・経済の創造や社会的な課題解決に向けて貢献していくことを目指しており、SDGs 達成年の3年前に開催されます。企業にとっては、SDGsの達成に向けた姿勢や技術など、社会課題の解決に貢献する取り組みをアピ

ルするとともに、SDGsの先を見据えたビジョンを提案し、環境を共創する新たな意識・行動の主流化において世界をリードすることのできる絶好の機会です。世界のものづくりを支える国として、そして気候変動の影響をより強く受けるアジアから発信することに大きな意味があります。また、2025年には、同じく横浜で第9回アフリカ開発会議(TICAD9)も開催されることから、自然・人・社会が共に持続する解決策を示すうえで、大変ふさわしいタイミングでもあります。

GREEN×EXPO 2027の重要なテーマに、農と食があります。私は、日本の農業の可能性を信じ、2025年2兆円、2030年5兆円の目標に向けて、日本の農産品の輸出促進に取り組んできました。日本を旅行で訪れた人々は帰国してからも日本の農産品を購入することが多いこともあり、私がかねて、観光と農産品の輸出を両輪で推進すべきと考えてきました。日本には、内外の観光客をひきつける「自然、気候、文化、食」がそろっています。それは、日本人が営んできた日々の生業なまわいが結実しているからにほかなりません。GREEN×EXPO 2027

では、日本各地で守られてきたひたむきな営みに光を当てるとともに、世界の多くの人々に対して、農と食、そしてそれを育んだ自然と共生する文化や暮らしといった日本の魅力を大いに発信してほしいと思います。2025年に開幕する大阪・関西万博とのシナジーも期待でき、新型コロナウイルスを克服し、日本が再び世界の観光大国を目指すうえでも重要な機会です。

日本は、古くから、自然を敬い、花や木々を愛あで、ときに荒ぶる自然をいなし、調和することで社会経済を成り立たせてきました。そうした日本だからこそ、生物多様性の損失や気候変動といったグローバル課題の解決に向けて、世界に対して新しい価値観を示すことも可能ではないでしょうか。わが国が誇る花々や木々で鮮やかに彩られた上瀬谷の大地で開催される2027年国際園芸博覧会 / GREEN×EXPO 2027は、その大いなる舞台となります。企業の皆さんには、ぜひご参画いただき、会場となる横浜から、グリーン社会にあるべき企業像を示し、多様な主体が環境と共創する幸せを創る明日の風景を描いて、次の未来を切り開いていただきたいと思います。